

横手市
マンガ活用構想

平成30年4月

横 手 市

目次

第1章 序論.....	1
1 策定の趣旨.....	1
2 構成と期間.....	2
① 計画の構成.....	2
② マンガ活用構想の期間.....	2
3 評価と改善.....	2
4 まんが美術館を取り巻く横手市の現状.....	3
① まんが美術館の現状.....	3
② 「増田の町並み」との相互交流.....	3
③ まんが美術館をまちづくりに活用する可能性について.....	3
第2章 マンガ活用構想.....	4
1 マンガ活用構想とは.....	4
2 横手市の目指すマンガ活用の将来像.....	4
3 マンガ活用構想の期間.....	5
4 マンガ活用の基本目標.....	5

第1章 序論

1 策定の趣旨

増田まんが美術館（以下、まんが美術館）は国内外の漫画家 183 名の原画を所有する国内でも類を見ない施設で、開館から 22 年間、「豊かな感性と創造力醸成の場」としてマンガ原画の展示にこだわった運営を続けてきました。

この間に、マンガはクールジャパンを代表する文化として国内外から熱い注目を浴びるようになった一方で、文化としてのマンガ研究はまだまだ発展途上で、マンガ原画をはじめとする原資料散逸の危機に直面しています。

このような状況の中、原画の収集・アーカイブの先進事例を作ったまんが美術館の評価が高まっており、令和元年5月にマンガ原画の収蔵・展示に重点を置いた美術館としてリニューアルオープンすることとしました。

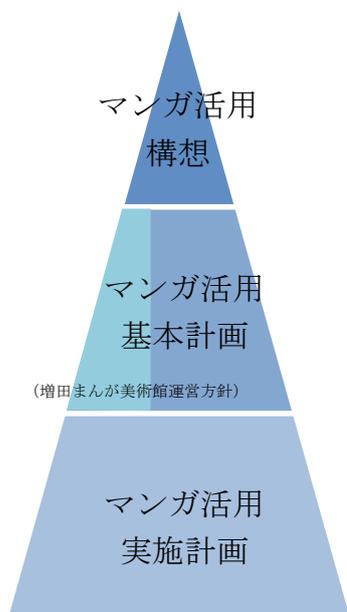
マンガ活用構想は、まんが美術館のリニューアルオープンに合わせ、マンガを横手市のまちづくりに計画的に活用していくための指針として、将来どのような活用を行うのか、そのためにどのような取組を行っていくのかを体系的に示したものです。

「マンガでえがく ひと・まち よこて」を目指し、まんが美術館のある横手市だからできるまちづくりに取り組んでまいります。

2 構成と期間

この計画はマンガ活用構想、基本計画、実施計画から構成されます。その内容は次の通りです。

① 計画の構成



●マンガ活用構想

将来像を明らかにし、それを実現するための基本目標を定めたものです。平成30年度から令和7年度を対象期間とします。

●マンガ活用基本計画

構想で示した目標を達成するための方針・取組を明らかにしたものです。平成30年度から令和2年度までの前期（リニューアル期）と令和3年度から令和7年度までの後期（安定経営期）に分けます。

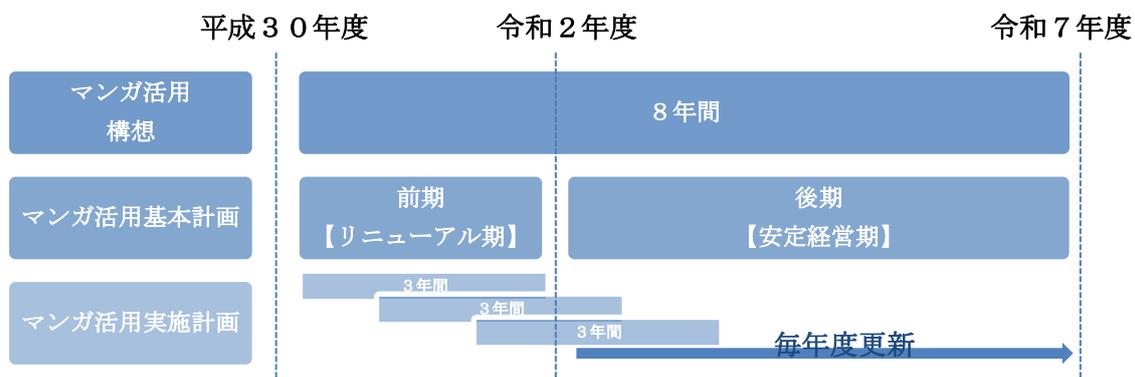
●マンガ活用実施計画

基本計画で定めた取組を進めていくための、具体的な事業内容を示したものです。毎年、向こう三年間を計画期間とし見直しを行います。

※増田まんが美術館運営方針

マンガ活用基本計画のうち、まんが美術館の運営に特化して方針を示したものです。

② マンガ活用構想の期間



3 評価と改善

限られた財源の中で最大限の事業効果を発揮するため、取組や事業について検証・評価を行い、PDCAサイクルを確立し日々の改善に努めます。

4 まんが美術館を取り巻く横手市の現状

① まんが美術館の現状

まんが美術館は平成7年10月にオープンし、開館22周年を迎えました。

国内外の漫画家183名の原画、16万7千枚を収蔵しており、これほど多くの漫画家の作品が一つの施設に収蔵されていることは全国でも珍しく注目されています。その作品の活用として矢口先生をはじめ大規模収蔵をしている先生方の作品のデジタルアーカイブにも取り組んでいますが、収蔵スペースの不足、まんが美術館の魅力減少という課題がありました。

収蔵している作品を貴重な地域資源として活用するため、規模を拡大し、マンガ原画の収蔵・展示に特化した施設として令和元年5月にリニューアルオープンします。

指標	平成26年度	平成28年度	平成29年度
まんが美術館入館者数	61,436人	59,229人	休館中
原画収蔵漫画家数	170人	183人	183人
マンガ原画収蔵枚数	345点	102,515点	167,761点

② 「増田の町並み」との相互交流

国選定重要伝統的建造物群保存地区「増田の町並み」には年間10万人の観光客が訪れていますが、「まんが美術館」とは相互交流が少ない状況です。

指標	平成26年度	平成27年度	平成28年度
増田の町並み観光客数	136,833人	102,485人	74,331人

③ まんが美術館をまちづくりに活用する可能性について

「伝統」と「マンガ」という異種の日本文化が隣り合わせに存在している増田エリアは国内外から大きな注目を浴びるポテンシャルを秘めており、一体的な観光拠点として相乗効果を図ることで横手市内全域への集客効果をあげ、地域経済へ大きく貢献する可能性があります。

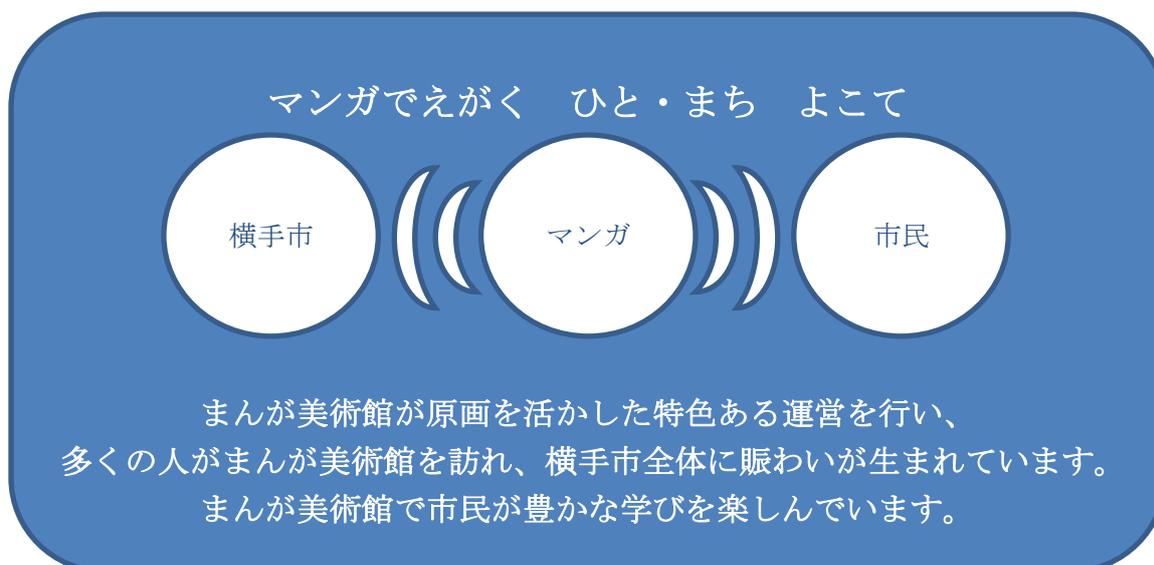
また、マンガ原画を日本一収蔵している特徴的な美術館があることを活かし、こどもの教育や文化振興への活用を図ることで住み続けたいまちの魅力づくりに繋げることができます。

第2章 マンガ活用構想

1 マンガ活用構想とは

マンガ活用構想は、横手市が目指すマンガ活用の将来像を明らかにし、今後取りくんでいく目標を示し、これを長期的な視点で計画的に実現していくため、取組の方向性を示すものです。

2 横手市の目指すマンガ活用の将来像



横手市では「みんなの力で未来を拓く 人と地域が燦くまち よこて」をめざし、人口減少、地域経済の低迷などの地域課題解決、よこて創生のまちづくりに取り組んでいます。

その中でまんが美術館は、隣接する「増田の町並み」と一体的な観光拠点として相乗効果を図り、横手市全体への集客効果を上げ、地域経済へ大きく貢献する役割を担っています。

まんが美術館が市民をはじめ国内外の多くの皆様から親しまれ、訪れていただけるようマンガ原画を活用した特色ある美術館運営に取り組むとともに、「増田の町並み」をはじめとした地元との連携を進め横手市の経済的成長に寄与します。

また、まんが美術館があるからこそできる特色ある教育や文化振興を図り、感性、創造力、人間性を育む豊かな学びを提供します。

「マンガでえがく ひと・まち よこて」を目指し、マンガを活用したまちづくりを進めます。

3 マンガ活用構想の期間

横手市の総合計画と連動して、長期的な視点で計画的に取り組むを行うため、マンガ活用構想は平成30年度（2018年度）から令和7年度（2025年度）までの8年間とします。

4 マンガ活用の基本目標

構想の実現に向けて、横手市がマンガを活用して取り組む3つの目標を「基本目標」として掲げます。

① マンガ原画を活用した特色ある美術館運営

国内初のマンガ原画の収蔵・展示に重点を置いた美術館として、市民をはじめ、国内外の人々から親しまれる美術館づくりを進め、「原画収蔵数日本一の美術館」を目指します。

また、まんが美術館の特色と魅力をより高めるため、マンガ原画の収蔵・アーカイブ、マンガ文化・産業を支える人材育成を進めます。

② 地域と連携した賑わい・経済効果の創出

まんが美術館と国選定重要伝統的建造物群保存地区「増田の町並み」を一体的な観光拠点として相乗効果を図り、賑わいを創出していくため、地域との連携促進、アクセシビリティの向上、戦略的なPRを進めていきます。

また、横手市全体へ経済効果を広げていくため、企業コラボレーション等に取り組みます。

③ マンガの魅力を活用したこどもの教育、豊かな学びの提供

日本一多くの漫画家のマンガ原画を収蔵するまんが美術館が横手市にあるという特別な環境を生かし、マンガの魅力を活用したこどもの教育を進めていきます。

また、まんが美術館の運営・研究の成果をキャリア教育や国際交流、道徳、美術、語学、社会教育等に活用し、豊かな学び・文化を楽しむことができるまちの魅力づくりへとつなげます。